

## 被災を想定した宿泊訓練

2025年1月10日、高知県立大方高等学校体育館で、冬場の震災を想定した宿泊訓練を実施しました。

極寒の体育館での宿泊は、生徒だけでなく教員にとっても未知の世界でした。事前に入念な準備を行いたいという思いはありましたが、基本的な考え方として「震災が実際に起こったとして、どのような生活を送るのか」ということを軸にしようと考えた結果、あるもので対応をしていくという結論になりました。等身大で、大方高校での避難生活を体験することにしました。

通常の授業のある日程でしたので、授業を終えて、生徒たちが集まってきたのは18時ごろでした。説明を受け目標を改めて確認し、発災したのは19時。まずは屋上へと避難しその後調理の用意や仮設トイレの設置、シェルパーテントの設置を進めていきました。電気の使えない想定でしたので、暗く冷たい場所での作業でしたが、生徒たちは慣れた手つきで設営を進めていきました。「これは絶対軍手いる。」「スマホじゃ光足りん。ランプいる。」等、初めての夜間の設営をする中で、色々が必要なものについて考えを巡らせていたようでした。

ポリ袋調理で、冷凍食品の持つ可能性に気付いたり、高齢者体験で、特に夜間の避難が高齢者にとってどれだけの困難さを持つかに気付いたりすることができました。

一通りの活動を終えた後には、石油ストーブで暖を取りながら、各所の温度を計測していきました。午前1時30分ごろ、教員の判断でエアコンのある部屋に移るまで、体育館で休みを取りました。土曜日の朝6時過ぎ、疲れた顔で、眠い目をこすりながら、片付けと朝食の準備を進めました。

事前のアンケートでは、7日程度なら学校で避難生活を行うことができる、と答えていた生徒もいたのですが、事後のアンケートでは、精々が3日程度である、と考えを改めていました。過酷な生活を体験し、必要なものについて考えを巡らせたこの経験を、遠くない未来にやってくる南海トラフ地震への備えにいかしていただきたいと思います。

